

2019年12月2日
シン・エナジー株式会社

グッドライフアワード 環境大臣賞 地域コミュニティ部門受賞 ～「奥飛騨・高山 自然エネルギーの里構想」～

シン・エナジー株式会社（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：乾 正博）は、環境省が主催する、第7回「グッドライフアワード」において、協業する奥飛騨自然エネルギー合同会社、飛騨高山グリーンヒート合同会社、奥飛騨水力発電株式会社とともに「環境大臣賞 地域コミュニティ部門賞」を共同受賞いたしました。

グッドライフアワードとは、環境に優しい社会の実現を目指し、日本各地で実践されている「環境と社会により暮らし」に関わる活動や取組を募集して紹介、表彰し、活動や社会を活性化するための情報交換などを支援していくプロジェクトです。（公式ホームページによる）

今回は、岐阜県 奥飛騨・高山地区における再生可能エネルギーの開発を起点とした一連の取り組み「奥飛騨・高山 自然エネルギーの里構想」が評価され、受賞にいたりしました。

・詳細：<https://www.env.go.jp/press/107426.html>（環境省ホームページ）

■共同受賞した会社（ ）内は代表者名

- ①シン・エナジー株式会社（乾 正博）
- ②奥飛騨自然エネルギー合同会社（本田 孝一）
- ③飛騨高山グリーンヒート合同会社（岡田 賛三）
- ④奥飛騨水力発電株式会社（志田 正雄）

■取り組みの紹介



奥飛騨第1バイナリー発電所（地熱）

出力：49.9kW



地元材を活かして電気と熱を供給（バイオマス）

出力：165kW



【予定地】安房谷小水力発電所の調査風景（水力）

出力：657kW



地元住民との会合の様子



地熱余剰温水を活用した錦鯉の養殖



奥飛騨・高山フォーラム&ツアーの様子

■「奥飛騨・高山 自然エネルギーの里構想」とは

自然が豊富な岐阜県の奥飛騨・高山地区において“人と自然の共生”を掲げ「奥飛騨・高山自然エネルギーの里」を創造し、エネルギーによる地域経済圏の発展を目指しています。

化石燃料からの脱却を見据え、2016年頃から地域の自然資源を活用した発電事業を中心とする地域づくりを開始しました。地熱をバイナリー発電に、川の水を小水力発電に、森林をバイオマス発電として活かすため、奥飛騨自然エネルギー合同会社（設立：2016年5月）、奥飛騨水力発電株式会社（設立：2017年11月）を地元企業と共に設立し、既存の企業である飛騨高山グリーンヒート合同会社の活動を開始させる（2017年8月）とともに順次取り組みを進めてまいりました。

本構想は発電事業だけでなく、地熱温水で錦鯉の養殖を行い、木質バイオマス発電の排熱を隣接する温泉施設（宇津江四十八滝温泉 しぶきの湯 遊湯館）で有効利用するなど、総合的なエネルギー利用を行っています。

将来的には地域新電力、地域エネルギー会社の設立による地域内経済圏の循環も視野に入れた先駆的事例です。また、2019年7月2日、3日には現地で「奥飛騨・高山フォーラム&ツアー」を開催し、エネルギーの地産地消による『【一次産業+観光】×エネルギー』をテーマに、国島芳明市長（高山市）や金融機関及び地元住民を含む総勢約150人が参加し、本取組意義や課題について議論しました。さらに、2020年には民間企業主催の現地エコツアーを予定しており、観光客増加を見込みます。

今後も、同地域における豊富な自然資源を生かした再生可能エネルギーの開発を推進するとともに、温泉の充実、地熱を利用した一次産業の創出を地域と共に行ってまいります。

■各発電所の概要

種類	発電所名	出力
地熱バイナリー発電	奥飛騨第1バイナリー発電所	49.9kW
木質バイオマス発電	飛騨高山しぶきの湯バイオマス発電所	165kW
小水力発電【施工中】	安房谷小水力発電所	657kW

■今後の発電所展開予定

種類	発電所名	出力
地熱バイナリー発電	奥飛騨第2バイナリー発電所	250kW
木質バイオマス発電	※未定（高山市内）	900kW
小水力発電	外ヶ谷小水力発電所	585kW
小水力発電	一宝水小水力発電所	657kW

当社は、未来の子どもたちからの“ありがとう”のため、SDGs（国連の定める17の持続可能な開発目標）に則り、再生可能エネルギーの開発を起点とし、気候変動問題に具体的な対策を示すとともに、地域とともに地域が豊かになり住み続けられる持続可能なまちづくりを目指します。

本件に関するお問い合わせ先

【報道機関の方】 シン・エナジー株式会社 社長室 広報担当 松本 有樹
TEL:078-600-2668(直通)